

日本原子力学会 熱流動部会  
「熱水力安全評価基盤技術高度化戦略マップ検討」WG 議事録（案）

日時：2020年9月10日（木）10：00-11：30

場所：WebExによるweb会議

出席者（敬称略）；

越塚（主査、東大）、三輪（北大）、木倉（東工大）、功刀（元京大）、伊藤（京大）、  
守田（九大）、中村（JAEA）、中塚（JAEA）、竹田（JAEA）、菅原（関電）、  
西（電中研）、西村（電中研）、木藤（日立GE）、中村（INSS）、西田（INSS）、  
岩城（東芝ESS）、大貫（MHI）記

配布資料

- 資料1 議事次第
- 資料2 委員リスト
- 資料3 熱水力RMの改定作業の経緯について
- 資料4 直近の経緯
- 資料5 前回合同SWG議事録
- 資料6 熱水力RM改訂版2020完成版（頭書）
- 資料7 安全評価技術マップ案（2020年完成版）
- 資料8 基盤R&D技術マップ案（2020年完成版）
- 資料8.1 200910 熱水力SWG資料
- 資料9 企画セッション提案書

議事；

2018年度から改訂が進められた熱水力RMにつき、部会パブコメが終わり、2020完成版として公開して良いか否かを諮問するWGが開催された。

越塚主査のご挨拶の後、中村幹事(JAEA)から資料4を使い、2020年1月からの直近の経緯が説明された。各技術マップの改訂を進めるとともに、7月にβ版を作成し、8月にパブコメを行い、本日、熱水力RM2020版の完成を各委員にご確認頂くこと。秋の大会で熱水力RMのあり方や今後のローリングについて議論する予定であることが報告された。

引き続き中村幹事から、資料5の前回合同SWGの議事録を引用しながら、各技術マップのローリングの概要が説明された。安全評価技術マップは、プラント状態（通常状態、異常な過渡状態、事故、重大事故）と、それぞれの状態に対する各種対策のリスク影響度、及び各種モデルの評価指標に対する重要度の観点から整理されていること。基盤R&D技術マップについてはSA前のドライアウト/バーンアウトやLOCA時挙動を含めたこと、安全評価技術マップとの連関が分かるような項番を振ったことが紹介された。

資料 6 から 8 が熱水力 RM2020 の本体となり、資料 6 は全体の巻頭となる部分で、「改訂の概要」と「改訂の方針」、各技術マップの見方が記述されている。中村幹事から改訂の概要が、功刀安全評価サブワーキンググループ主査から「安全評価技術マップ」の改訂方針が、守田熱水力サブワーキンググループ主査から「基盤 R&D 技術マップ」の改訂方針が説明された。

ここで、中村幹事から熱水力 RM2020 は 2017 年版の熱水力 RM と併せることで時間軸を含めた RM が完結する構成であることが指摘され、その旨、「改訂の概要」に追記する必要性が指摘された。（＊）

＊：この追記は本会議後速やかに中村幹事により行われ、公開版に反映された。

次に、資料 7 の安全評価技術マップの中身について中村幹事より説明があり、資料 8 の基盤 R&D 技術マップの中身については資料 8.1 も使いながら木藤幹事より説明があった。

以上で熱水力 RM2020 の説明はすべて完了し、公開版とすることの是非が諮問され、異議無く承認された。

公開版の熱流動部会 HP への掲載依頼は西幹事が行うこととなった。

西幹事より、資料 9 により秋の大会での企画セッションの紹介があった。RM のワーキングは 9 月末で終了となり、今後の進め方については企画セッションでの議論を踏まえて熱流動部会が検討していくことになるとの説明があった。

以上